

下関市医師会学術講演会

謹 啓

時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この度下記要領にて学術講演会を開催する運びとなりました。

つきましては、ご多用とは存じますが万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

謹 白

日時 2013年6月14日（金）19:00～20:15

会場 東京第一ホテル下関 3階 『桜の間』

山口県下関市赤間町6-2

TEL 083-223-7111

◆学術情報提供 19:00～19:15

「エディロール」 中外製薬株式会社

◆特別講演(19:15～20:15)

座長 下関市立市民病院 整形外科部長 白澤 建蔵 先生

演者 慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科

特任准教授 竹田 秀 先生

「骨粗鬆症の病態と治療

—治療薬の使い分け—」

抄録が裏面にございます

* 日本医師会生涯教育認定講座1単位を取得できます。

カリキュラムコード(60. 腰痛 77. 骨粗鬆症)

* 日本整形外科学会専門医資格継続単位

「01」整形外科基礎科学 または「04」代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)のいずれか1単位
もしくは、リウマチ医資格継続単位1単位が取得できます。

* 日本リウマチ財団登録医教育研修会1単位が取得できます。

* 日本リウマチ財団リウマチケア看護師教育研修会1単位が取得できます。

会終了後、情報交換の場をご用意しております

共催 : 下関市医師会
下関整形外科医会
中外製薬株式会社

<抄録>

「骨粗鬆症の病態と治療 ―治療薬の使い分け―」

骨はリモデリングにより常に新しく作り変えられている臓器である。様々な要因により、骨吸収と骨形成のバランスが崩れ、さらにカルシウム代謝異常が起こることで骨は脆くなり骨粗鬆症となる。骨粗鬆症は骨折リスクを上昇させるだけではなく、生命予後に関わる可能性もあることからその治療の重要性は大きい。

関節リウマチにおいて、関節滑膜細胞の増生と炎症性サイトカインの分泌によって惹起される関節破壊は大きな問題である。なかでも、滑膜線維芽細胞や滑膜に侵入したTリンパ球は、破骨細胞の分化に必須のサイトカインであるRANKLを発現し、関節破壊の病態の中心的な役割を果たす。また、関節リウマチでは、関節局所での骨破壊に加えて、全身的な骨粗鬆症発症の危険性が増加することも知られている。

関節リウマチの治療においては、その中心を担うDMARDsに加えて、グルココルチコイドが併用されることもある。しかしながら、グルココルチコイドの長期投与は骨粗鬆症を惹起するため、関節リウマチ自身に加え、グルココルチコイド治療に付随する骨粗鬆症の管理と治療が大きな問題となっている。

近年、骨密度とは独立して骨強度を規定する因子として、骨質の存在が明らかとなった。骨粗鬆症の治療においては骨密度を上げるだけでなく、骨質やカルシウム代謝異常にも着目することが望まれる。現在、骨粗鬆症治療薬としては、ビスフォスフォネート製剤、SERM製剤、PTH製剤、活性型ビタミンD₃製剤等がある。「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2011年度版」に基づいて、年齢や既存骨折の有無などを考慮し、これらの薬剤を使い分けることで、治療効果の最大化を目指したい。